



地域経済統合は域内のバリュー チェーンを促進するか？：ラテンアメリ カ・カリブ地域からのエビデンス

2025年5月30日

村上 善道

神戸大学経済経営研究所

Research Institute for
Economics and Business Administration
Kobe University

研究者としてのオリジナリティ・強み

- 博士号取得は本学であるが、国際的なテーマに関して単著で査読付き国際ジャーナルへの掲載をめざして研究を行っている。
- マイクロ計量分析(因果推論)×貿易実証×ラテンアメリカ・カリブ(LAC)地域(世界的にはこの3つが重なる研究者は多数であるが、国内では極めて希少)。
- 40歳を超えてから国際ジャーナルへの業績が伸びている(これまでのWeb of Science収録の国際ジャーナル論文8件のうち4件が2021年以降にpublish)。
- 本日は、以上の3点を体現している、国際経済学の著名なジャーナルに掲載された自身の最新の研究内容を紹介する。
- Murakami, Y. Do deep regional trade agreements facilitate regional production networks in Latin American and Caribbean countries?. *Review of World Economics*(2025). <https://doi.org/10.1007/s10290-024-00579-9>

本研究の背景

- グローバル化に関して、必ずしもエビデンスに基づかない否定的な評価がなされることが少なくない。
- グローバル化の影響はデータを用いて検証すべき。
- 貿易自由化に関して、特定の国・地域のみで貿易を自由化する自由貿易協定(FTA)などの地域貿易協定(RTA)が主流になっている。
- 現在、ある財・サービスの生産工程を複数の国で分業して行うことが重要な特徴になっている。
- これはグローバル・バリューチェーン(GVC)と呼ばれる。GVCへ加わることは一般に生産性を高め、その国の経済にポジティブな影響をもたらすとされている。
- では、RTAのGVCへの影響は？ RTAによる関税障壁の低下に加え国家間のルールの調和は、調整コストの削減を通じて、国境を越えた生産の円滑化をもたらすと期待できる。

なぜラテンアメリカ・カリブ地域なのか？

■LAC地域はRTAの先進地域である。

➤日本の最初のRTAは、2002年に発効した日本・シンガポール経済連携協定(EPA)。

➤LAC地域では、1961年にラテンアメリカ自由貿易連合(LAFTA)と中米共同市場(CACM)を発効。

■LAC地域はその後も様々なタイプのRTAを域内のみならず域外国とも多数発効してきた。

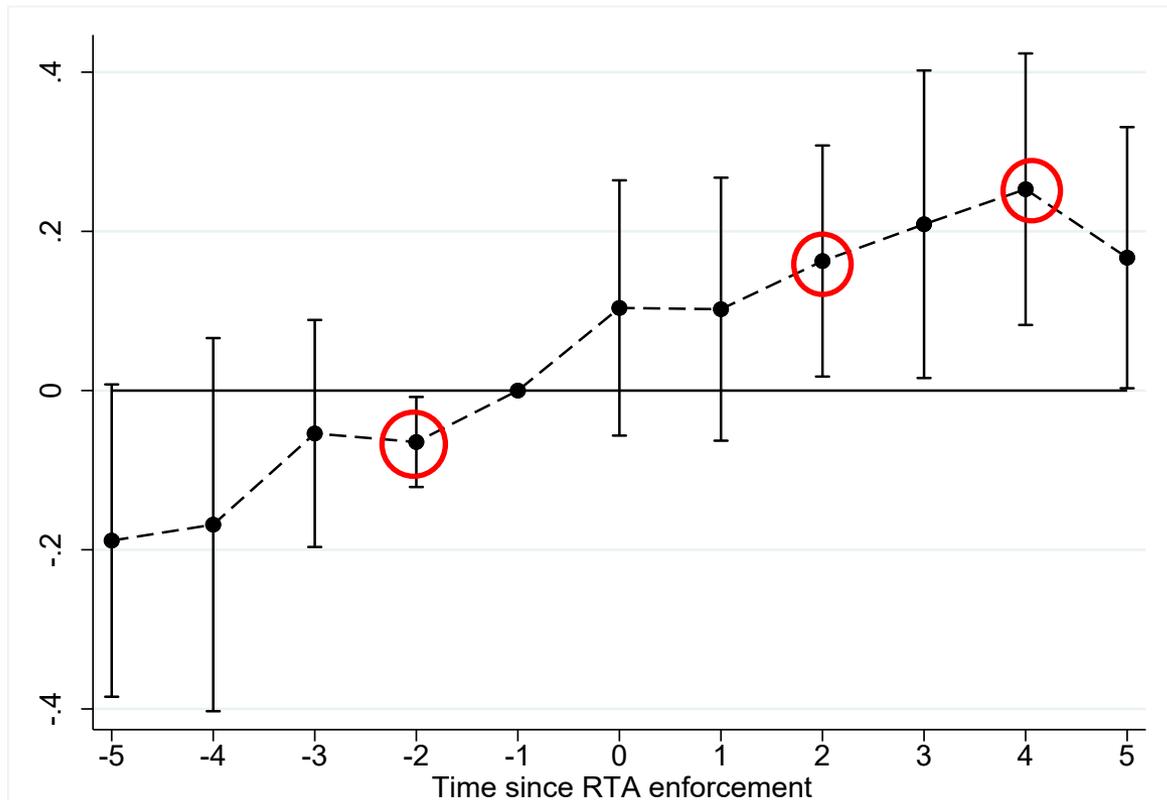
■一方でLAC地域は資源依存度が高く、域内のバリューチェーン形成は必ずしも進んでいない。

■LAC地域を対象に、RTAが域内のバリューチェーンに与える影響を検証する。

本研究のオリジナリティ・貢献

- RTAが2国間貿易に与えた影響に関しては既に膨大な先行研究がある。では何がオリジナリティ・貢献か？
- RTAを発効したか否か(0 or 1)ではなく、RTAの多様性を考慮しその「深さ」を当該協定がカバーする政策分野の範囲とその法的拘束力をもとに0と1の間で評価。
- ある地域内の一部の国やRTAだけを対象とするのではなく、1986年から2015年のLAC地域全33国のうち域内の2国以上が加盟して発効したすべてのRTAを分析対象。
- 貿易全体ではなく、2国間部品輸出で計測するGVC貿易への影響を分析。
- RTAの平均的な効果を推定するのではなく、イベントスタディという手法を用いて、効果の時間的な異質性つまり発効後の1年ごとの効果を推定する。

結果: RTA発効の2国間GVC貿易への効果



出所: Murakami (2025) Figure 1 RTAのCore depth

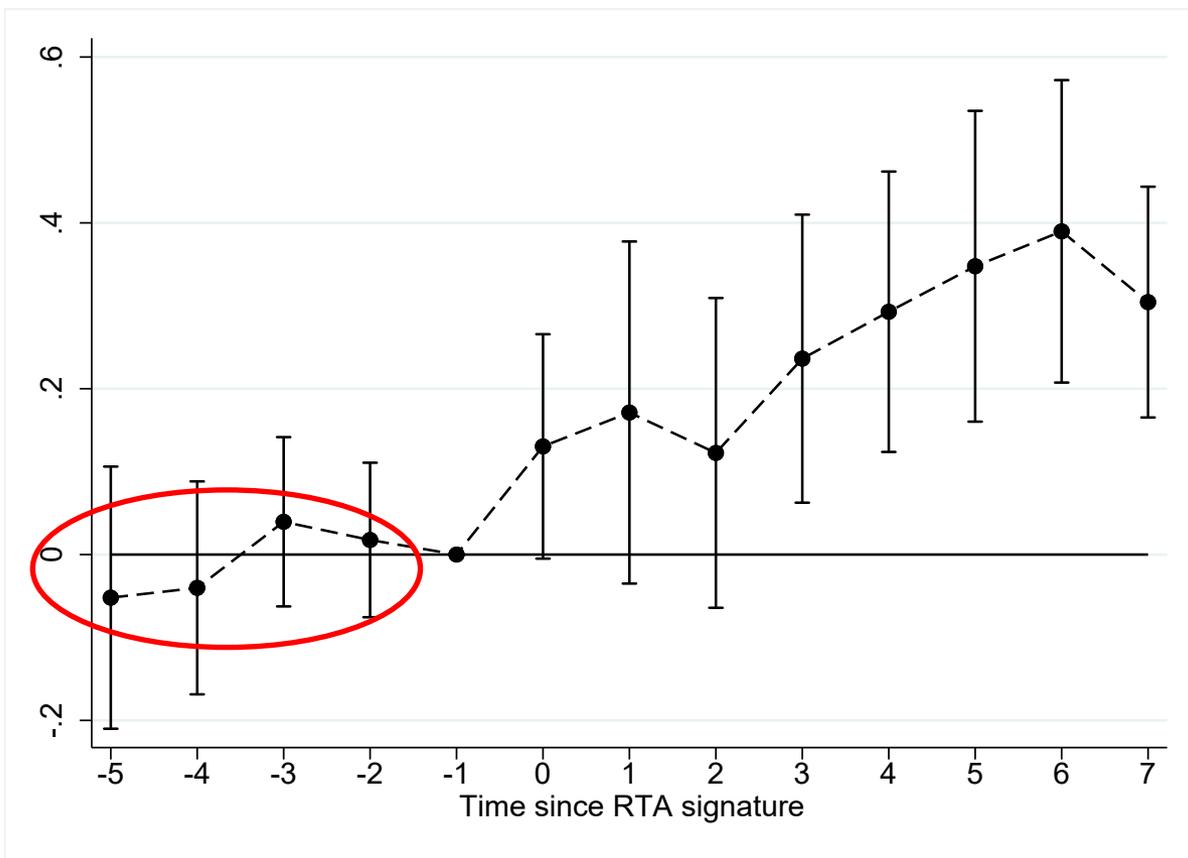
注: 実線は95%信頼区間を表す。X軸は年を示しRTAの発効時点が0年を示す。黒点はRTAを1度も発効していない2国間および発効した2国間の発効1年前と比べた係数である。

- RTAは発効の2年後から域内の部品輸出に有意に正の効果

- RTAの正の効果は4年後にピークになる。もしGVC貿易に最も関係すると考えられる18の政策分野を法的拘束力を伴ってカバーするRTAを発効した場合、域内の部品輸出は発効1年前と比べ29%増加。

- ただし、部品輸出は発効2年前から増加。RTAと部品輸出双方に影響する何らかの出来事が影響した可能性を否定できない。

結果: RTA署名の2国間GVC貿易への効果



- 分析対象のRTAの署名と発効の間の平均期間は1.7年。
- 発効ではなく、署名にするとRTA署名前にはRTAがない2国間と有意な差がない。
- つまり、RTAの「深さ」は因果的な意味で域内の部品輸出に正の効果がある。
- RTAが署名され、その内容が公開されると、発効を予期して部品輸出が増加することが確認された。

出所: Murakami (2025) Figure 2 RTAのCore depth

注: 実線は95%信頼区間を表す。X軸は年を示しRTAの署名時点が0年を示す。

まとめ

- LAC地域において、RTAの「深さ」は様々な要因をコントロールした上で、域内のGVC貿易に正の効果をもたらしている。
- RTAの発効2年前から生じる増加は、RTAの署名によって発効を予期して経済主体が反応を開始することから説明できる。
- LAC地域の場合は、域内の主要国をすべてカバーするような「深い」RTAが不在なことが域内のバリューチェーン形成を妨げている可能性を示唆。
- RTAの「深さ」はアジア含め他の地域でもGVC貿易に正の効果を与える可能性がある。しかしその効果の大きさは、協定や参加国のタイプによって異なる可能性があり検証が必要である。